

経営比較分析表（令和6年度決算）

長崎県 松浦市

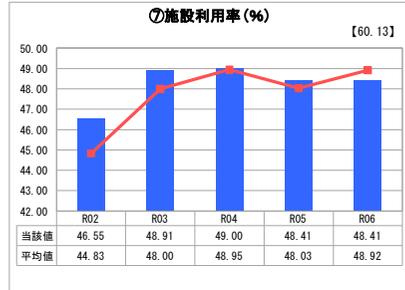
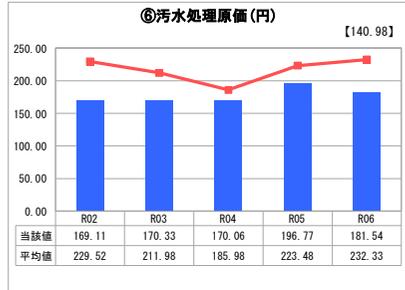
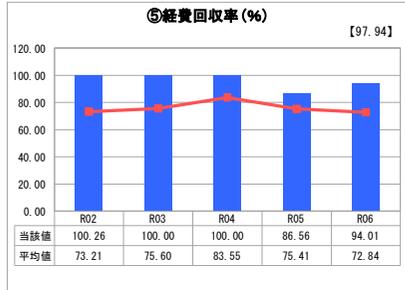
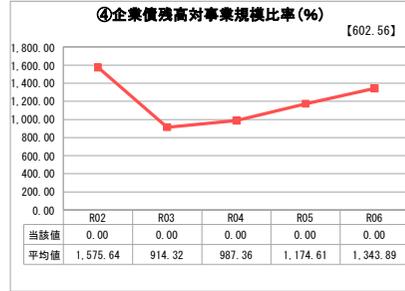
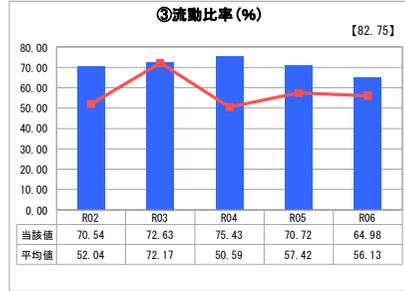
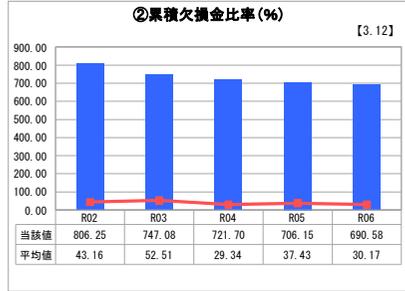
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	59.10	25.15	103.98	3,410

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,439	130.55	156.56
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,093	2.08	2,448.56

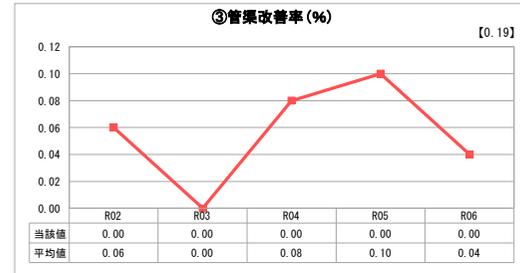
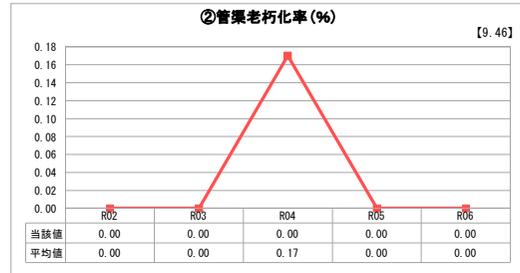
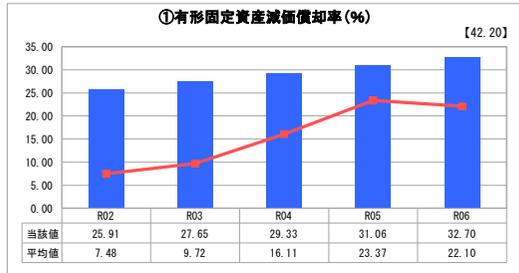
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、100%以上を維持しているが、整備推進中であることから使用料収入が少額で一般会計からの補助金に依存している。

②累積欠損金比率については、整備推進中であるため、現時点では使用料収入が少額であり、累積欠損金比率が高い値を示している状況である。現状、徐々に欠損金比率の増加を回り、改善を目指す。③流動比率については、現在100%を下回っているが、整備完了後接続率の向上により使用料収入の増加を回り、改善を目指す。④経費回収率については、ここ数年は100%を上回っていたが、令和5年度は一時的な経費（料金システム更新に伴う負担金）増により86.56%に低下した。令和6年度は94.01%まで回復。修繕費の負担増により、100%を上回るまでには至っていない。

⑤汚水処理原価については、類似団体と比べ、良好な数値であるが、維持管理費は増加しており、節減が必要。

⑥施設利用率については、整備推進中であることから、今後上昇していく見込みである。

⑦水洗化率については、供用開始区域は拡大中であるが、新規接続数と区域内人口の比率が同程度であったことから横這いとなっている。今後も供用開始後の早期接続を推進し、水洗化率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、償却の進行に伴い、年々増加している。

②管渠老朽化率、③管渠改善率については、供用開始後約18年であり、標準耐用年数には至っていない。現時点では管渠の大規模な修繕、改良、更新等の必要性はない。

処理場の機械設備等については、延命化のために耐用年数を経過したもから随時オーバーホール等を実施している。

全体総括

事業経営を安定させるためには、計画的な事業推進による建設事業の完了と供用開始区域の拡充が必要。また、以下の対策も併せて行う。

- ・人口減少に伴う収入減少に対しては、水洗化率の向上、将来の下水道使用料の見直し検討により安定的な財源確保を図る。
- ・施設の老朽化については、ストックマネジメント計画に基づき、計画的かつ適切な更新・改修を実施する。
- ・下水道人材の確保については、人事部門と協議し、若手の技師又は専門職中途採用者等に知識・技術継承を図る。
- ・物価上昇による経費増に対しては、経費節減の徹底と将来の下水道使用料の見直し検討により、健全な財政運営を維持する。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。